

**■ケアフード活動 朝のNHK総合ニュースで放送
在宅治療の患者さん、ミキサー使った調理風景も**

フランス料理の手法を使って食べやすく調理する「ケアフード」の研究、普及活動が、NHK総合の朝のニュース「おはよう日本」で取り上げられました（8月22日放送）。千葉県がんセンターでの試食会やシェフの指導を受けながらのメニュー開発の様子、電理事長のインタビューなどを撮影。これまでに実施したアンケートなども紹介されました。放送後は、事務局にレシピや試食会に関する問い合わせが多数寄せられました。

通院しながら抗がん剤を使った治療を続ける患者さんの自宅で、ミキサーを使った調理の様子も詳細に収録(写真右上)。体調が比較的良好な時期に野菜やフルーツのピューレをまとめて作って冷凍保存している工夫などに触れ、実際に治療生活にケアフードを取り入れることの利点や課題についても迫りました。



**■平成24年度 理事会・通常総会が開かれる
患者サロン活動支援、先端がん医療研究助成など8件承認**

5月15日、千葉市文化センターで平成24年度の理事会・通常総会を開きました。患者さん同士が気持ちを分かち合い、情報交換する場として開設が進む患者サロン活動への支援、最先端のがん治療などの研究に対する助成、ケアフード普及活動、米国エール大学への医療者海外研修など8件の事業計画が承認されました。

竜崇正理事長は冒頭で「患者さんに寄り添った事業を立案、継続していきたい。医療に携わる多くの方の協力をぜひともお願いしたい」とあいさつしました。

総会に続いて、平成23年度「患者と家族のがん研究基金」の実績報告会を開催(写真)。発表したのは首藤潔彦氏(研究当初・千葉大学大学院)、浜野公明氏(千葉県がんセンター)、村山輝子氏(千葉県オストミー協会)の3名。それぞれ食道がんの治療効果予測法の開発や、在宅療養における遠隔医療の有用性、オストメイトの食生活改善に向けた調理の工夫などをテーマにスライドを使って成果を報告しました。



↑実績報告会で発表する研究者

**■平成24年度「患者と家族のがん研究基金」
研究費の助成対象3件決まる
入院ミキサー食の工夫、ストーマ別の食生活向上など**

がん医療の最新治療法の開発や研究、患者さん自身による生活の質向上に向けた取り組みに対して助成支援する「患者と家族のがん研究基金」の今年度の助成対象者3件が決まりました。1年かけて研究、調査活動を進め、実績を公開します。当NPO法人が設けている審査委員会での厳正な審査の結果、3件を選びました。

昨年度の研究内容をさらに発展させて調査を続けたいという要望にもこたえました。研究基金担当の中川原章常任理事(千葉県がんセンター長)は「エンドポイントを見定め、じっくりと腰をすえてデータ蓄積、分析を行い論文化できるよう取り組んでいただきたい」と話し、研究成果に期待を込めています。



↑調査に取り組む研究者

研究者・団体	研究テーマ
佐々木良枝(千葉県がんセンター)	がん治療や病期により食形態が制御される患者さんの食事内容についての検討
村山輝子(千葉県オストミー協会)	ストーマ別オストメイトの食物と生活の質の向上
越川信子(千葉県がんセンター)	タラポルフィンナトリウムによる放射線増感治療の試み